



そのき



2020年6月15日（月）
新潟市立曾野木小学校 学校だより
第265号
<http://www.sonoki-e.city-niigata.ed.jp/>



今まで経験したことがないことの連続

新しい生活様式に慣れても、「心の距離」は遠ざけない

校長 青木 清美

【新型コロナウイルス感染拡大防止のために必要なこと】

以下のことは、いわゆる「新しい生活様式」として必要なこととされています。

- 「密閉」「密接」「密集」の3密を避ける。隣の人と適正な距離を保つ。
屋内では、こまめに換気を行う。
- 石鹸での手洗い（アレルギーがなく可能な状況ならアルコール消毒）の励行。
- マスクの着用。

5月上旬に、緊急事態宣言が解除になってから、学校も午前・午後での分散登校、5月27日からは、本格再開のための準備期間で、午前登校・給食と進んできました。

6月1日からやっと、4月に2週間だけ経験した通常の学校に戻りました。1年生にとっては、「にゅうがくおめでとう」の後、十分な学校生活、集団での生活を送ることができないままに過ごしてきました。その間、保護者の皆様のお声がけや地域の皆様の温かい見守りで、1年生の子どもたちは、家庭やひまわりクラブ等で過ごすことが多くなりました。

3月～5月まで、保護者の皆様のご協力に感謝いたします。6月になってから通常の学校生活に戻りましたが、上記の「新しい生活様式」は今後も継続する必要があります。この生活様式は、どうしても「近づかない」「何となく遠ざかってしまう」ことを促してしまいます。

【このような状況！ 子どもたちの心は・・・】

新型コロナウイルスの感染拡大防止のためには、3月以降の上記の対応も止むを得ないものでした。さらに、「3密を避ける。」「友達の家遊びに行かない。」等々のルールを守りことも求められました。いずれにしても、子どもたちは、いつも通りのリズムで生活を送ることができない状況でした。（これは大人も同じだったと思いますが）

この状況は、子どもなりに、頭では「分かっていた。」と思います。でも、気持ちや心の中はどうだったのでしょうか？ また、思い切り運動したり、友達と話したりできませんでした。

保護者の皆様からのあたたかい声掛けや見守りの中で、子どもたちは過ごしてきました。

しかし、いつもとは異なる生活リズムの連続、規制のかかった生活、子どもたちにストレスがかかったことは間違いありません。その辛さを声や行動に出せる子どももいます。同時に、声や行動に表さない（表せない）子どももいます。私たちは、これからも、子どもたちの声に耳を傾け、子どもにも寄り添うことを大事にして指導や教育活動を行います。

保護者の皆様、お子さんの様子で気になることがあったら担任、学校までお知らせください。また、学校でお子さんの気になる様子が見られたら、保護者に連絡します。学校と家庭が連携して、お子さんが規則正しいリズムで生活を送れるように支援していきたいものです。

教職員と子ども、子ども同士、適正な距離を保っても、心の距離は遠ざけない